

—市民が主役のまちづくり—

支え合う豊かな地域社会を目指して

平成28年4月から、 コミュニティセンターが始まります。

子どもたちのために、孫たちのために、地域の未来のために。市民一人一人が地域の活動に参加しやすく、地域を支え合うことができるしくみが始まります。

そのような社会情勢の変化に対応するために、地域における新たなしくみをつくる必要性が出てきました。

は、その地域に暮らす皆さんのではないでしようか。自分たちが暮らす地域を良くするためには、自ら行動することが必要となっています。

七尾市は「市民が主役のまちづくり」「協働のまちづくり」を掲げ、さまざまな取り組みを進めています。一方で、人口減少や少子高齢化の進展などによる市民ニーズの変化により、これまで通りの公共サービスでは、市民の安全で安心な生活を支えきれない状況になっています。

「新たなしくみとは
コミュニティセンター」
地域づくり協議会や地域団体などの活動拠点として、市民が活動しやすい場「コミュニティセンター」を整備します。七尾地区は、今ある公民館施設を活用します。田鶴浜、中島、能登島地区は、サンビーム日和ヶ丘、中島市民センター、能登島総合健康センターを活用し、田鶴浜、中島、能登島市民センターを置きます。また、これまで市民センターで行っていた行政事務を一部見直し、行政サービスコーナーを置きます。

「コミュニティセンターとは」
コミュニティセンターは、新たに建てるのではなく、地域の施設を活用します。具体的には次のようになります。

- 七尾地区 公民館
- 田鶴浜地区 サンビーム日和ヶ丘
- 中島地区 中島市民センター
- 能登島地区 能登島総合健康センター

地域では核家族化による支え合いの意識の低下や近所付き合いの減少など、地域コミュニティの意識もだんだんと薄れてきました。さらには、地域活動の担い手が減少し、地域の祭りや行事を維持することが困難になってきました。

地域づくり協議会
さまざまな地域の課題に、自分たちで考え、決めて、取り組む、地域活動の中心となる組織です。

かつてあった地域のつながりが時代とともに失われつつあります。また、日本各地で地震や豪雨などの災害が多発する中、もっとも身近な地域社会のつながりの大切さが改めて実感されるようになりました。

不審者の子どもへの声掛けや振り込め詐欺など多様化する犯罪情勢。また、幼児や児童、高齢者など交通弱者の事故。防犯や交通安全は、地域全体で取り組んでいかなければならない課題の一つです。防犯・交通安全パトロールや意識の啓発など、地域一丸となった防犯・交通安全活動の拠点になります。

次の機能を備えた拠点施設で、市が管理します。

- 住民が主体となって、自助、共助によるまちづくりを行う場所
- 住民が協力、連携したり、交流したりする場所

コミュニティセンターの活用例

すでに地域づくり協議会が設立された地域では、地域の課題解決に向けた活動を展開しています。地域づくり協議会はもちろん、地域の団体は、活動の場としてコミュニティセンターを利用できます。

① 防災活動

いつ発生するか分からない災害には、自助と共助の活動が重要です。自主防災組織と、消防団や防災士、民生委員などが連携して、防災活動を行う必要があります。災害時はもちろん、図上訓練(地図を使った防災訓練)や避難訓練、防災資機材の点検など、いざというときのために準備する場として利用できます。



② 防犯・交通安全活動

不審者の子どもへの声掛けや振り込め詐欺など多様化する犯罪情勢。また、幼児や児童、高齢者など交通弱者の事故。防犯や交通安全は、地域全体で取り組んでいかなければならない課題の一つです。防犯・交通安全パトロールや意識の啓発など、地域一丸となった防犯・交通安全活動の拠点になります。



③ 福祉活動

同じ町に暮らす人と道ですれ違ったとき、あいさつできる関係が作られていますか。普段の暮らしから顔が見える関係づくり、一人暮らしのお年寄りへの声掛けなど、地域福祉のつながりを作る場として利用できます。



コミュニティセンターは、これまで公民館で行われていた地域活動の場という側面に加え、防災、防犯・交通安全、福祉といった地域活動のさらなる拡充を手助けする場です。

地域を元気にするために、子どもや孫たちが暮らす50年後、100年後の七尾を豊かにするために、地域の皆さんが自主的に活動できる場が、いよいよ始まります。